



政府統計

報道関係者 各位

平成 26 年 12 月 11 日

【照会先】

大臣官房統計情報部

人口動態・保健社会統計課世帯統計室

縦断調査管理官 越路 幹男

室長補佐 坂田 朗広

(担 当) 出生児縦断統計第一係(内線 7474)

(代表電話) 03(5253)1111

(直通電話) 03(3595)2413

第 12 回 21 世紀出生児縦断調査(平成 13 年出生児)の結果

厚生労働省では、このほど、同じ集団を対象に毎年実施している「21 世紀出生児縦断調査(平成 13 年出生児)」の第 12 回(平成 25 年)結果を取りまとめました。21 世紀出生児縦断調査は、2001(平成 13)年 1 月 10 日から同月 17 日と、同年 7 月 10 日から同月 17 日の間に生まれた子どもについて、生活実態や経年変化の状況を継続的に観察するため、保護者と子どもに協力を依頼しているもので、少子化対策などの施策のための基礎資料を得ることを目的としています。

第 12 回調査では、平成 13 年度の第 1 回から継続して協力が得られた 32,065 人について集計しており、調査時点での子どもの年齢は 12 歳(小学 6 年生)です。

【調査結果のポイント】

1 母の就業状況の変化

母が有職の割合は第 1 回調査(出産半年後)の 25.2%から年々増加し、前回(第 11 回調査(小学 5 年生))で 7 割を超え、今回(第 12 回調査(小学 6 年生))では 73.7%と更に増加 (3 頁 図 1)

2 子どもの手伝いの状況

・女兒の方が男児に比べ、「お米をといだり、料理を作るのを手伝う」、「洗たく物を干したり、たたむ」といった、日常的に行う家事の手伝いをしている割合が高い (6 頁 図 3)

・父が家事を「よくする」方が、「ほとんどしない・まったくしない」より、子どもが手伝いをしている割合が高い (7 頁 図 5)

調査結果の詳細は、別添概況をご覧ください。